



令和 2 年度 日本財団支援事業

# 新型コロナウイルス感染防護対策支援事業 報告書

令和 4 (2022) 年 3 月

公益財団法人 日本訪問看護財団

## 内容

はじめに	- 1 -
第1章 事業の概要	- 2 -
1. 事業の目的	- 2 -
2. 事業目標	- 2 -
3. 事業の実施経過と方法	- 2 -
1) 打ち合わせ会議の設置	- 2 -
2) 感染防護具の封入内容の決定	- 2 -
3) 感染防護具の購入	- 3 -
4. 配送拠点設置	- 3 -
5. 広報活動	- 4 -
6. 申し込み対象の決定	- 4 -
7. 申し込み方法の決定	- 4 -
8. 月別申し込み状況と県別申し込み状況	- 4 -
9. 打ち合わせ会議の開催経過	- 6 -
10. 事業の実施経過	- 9 -
第2章 事業の詳細	- 11 -
1. 申し込み状況と全国への発送・備蓄数	- 11 -
2. 協力団体の活動状況	- 12 -
3. 県別月別申し込み状況	- 13 -
第3章 アンケート結果	- 15 -
第1節 概要	- 15 -
1. 目的	- 15 -
2. 研究計画・方法	- 15 -
1) 研究対象者	- 15 -
2) 研究デザイン	- 15 -
3) 研究方法	- 15 -
第2節 結果	- 17 -
1. 事前アンケート結果	- 17 -
1) 申し込み事業所・療養者などの状況	- 17 -
2. 事後アンケート結果	- 36 -
1) 療養者、家族の状況	- 36 -
2) 事業所の体制	- 40 -
3) 本プロジェクトの体制	- 47 -
4) 本プロジェクトの受益者	- 49 -
5) PPEの量	- 55 -

6) スタッフの安心感.....	- 68 -
7) プロジェクトの改善点などの自由コメント.....	- 69 -
第4章 本プロジェクトの状況と今後の活動.....	- 70 -
1. 本事業への写真提供と感謝メールの文面.....	- 70 -
2. 今後の実施状況.....	- 74 -
参考巻末資料	

## はじめに

2019年12月に中国武漢で最初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が発生したことが報告されてから、瞬く間にパンデミックと呼ばれる世界的な流行となりました。

日本でも2020年1月15日に感染者が確認されて以来大都市を中心に感染が拡大してきており、2022年4月現在でも第6波が高止まりで終息の気配も見せず、新たな変異株の侵入も心配されている状況です。

発症当初は医療機関を中心に感染症対策が進められていたものの、医療現場の逼迫を避けるために宿泊施設や自宅での療養者も増えてくる流れの中で、地域の健康の護り手である訪問看護師たちの活躍する場も当然のことながら大きく広がってきました。しかし小規模事業所が多く対応できないところ、感染症に対して経験不足のところ、また多くのところで感染防護具が不足などいろいろな問題が明らかになりました。

日本訪問看護財団としても訪問看護師や訪問介護員の皆さんが安心安全な体制のもとで COVID-19 感染者に対応できるよう、支援したいと願っていましたが、幸い日本財団からの財政支援を受けて感染防護具を用意することができ、介護現場支援プロジェクト吉江代表とともに全国の現場に送付する事業を立ち上げることができました。

全国に112の協力団体がおかれ、準備した4000組の感染防護具を必要とする事業所に素早く配布できるようにご協力いただきました。

一時感染者が減少し、現場からの要請が少なくなった時期もありましたが、第6波の現在はまた逆戻りの状況が続いています。感染防護具を装着した姿をみるにつけ、現場の訪問看護師たちにとっても大変な経験だったと思いますが、COVID-19の様子をうかがいながらもうしばらくしっかりと頑張っていたいただきたいと思います。

何よりも素早く対応して感染防護具に対する財政支援をしてくださった日本財団笹川会長に心から御礼申し上げます。



2022年3月31日

公益財団法人 日本訪問看護財団  
理事長 清水 嘉与子